

時間割コード	KB7701	ナンバリング	KB-CRC-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

Japanese Pop Culture A

## 授業の概要/Course Overview

This course examines contemporary Japanese popular culture from sociological perspective. This class focuses on manga and anime. Both international and Japanese students who are willing to actively participate in the discussion about these topics are welcome to take.

## キーワード/Keyword(s)

Pop Culture, Cultural Studies, Anime, Manga

## 到達目標/Learning Objectives

After completing this course, students will be able to:

1. understand and describe various issues in Japanese popular culture,
2. critically analyze these issues from multiple perspectives, and
3. logically describe their own opinions in forms of presentation and academic writing.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.Introduction to the course-Anime and its globalization
- 2.Otaku culture
- 3.Reality in manga
- 4.Anime and its commercialization
- 5.Anime pilgrimage to sacred places
- 6.Field trip to Oarai
- 7.Field trip to Oarai
8. Reflecting on our field trip and the course/Presentation on Field Trip to Oarai

### 【Active Learning】

In this class, the instructor uses the active learning model to facilitate the discussion on the above-mentioned topics.

In Week 6 and 7, as a field trip, students will go to Oarai town which is trying to promote the town through anime pilgrimage.

In Week 3 and 5, students will watch documentary videos on the anime industry. After watching the videos, students will engage in discussion on the cases.

Throughout the semester,

①Students are first required to think individually, then will actively participate in pair or group discussions and discuss the topics covered in the classes. After the discussion, the instructor will facilitate in-class discussions.

- ②Students are required to actively participate in the discussion on Social Media to share their comments/opinions.
- ③Students will work on a fieldwork project with their classmates.

【Learning Outside of the Classroom】

- ①Read assigned and supplemental reading materials prior to the class.
- ②Borrow suggested reading materials listed on the syllabus from the university library and read sections related to the topics covered in classes.
- ③Discuss with your classmates in- and outside of the classes in order to deepen your understanding of the lectures.
- ④Participate in the discussion on the bulletin board of social networking services where students will interact with each other. In case students have any questions, students are most welcome to ask them on this platform.

## 履修上の注意/Notes

- ・ This class will be conducted in English.
- ・ Students are required to actively participate in every class discussion.
- ・ No written final exam is given in Class 8.
- ・ Students will visit Oarai on their own with their group members.

The following expenses will be required for the field trip:

☆Round-trip fee from Mito to Oarai

TOTAL ¥1,300 from Ibaraki University to Oarai Station as you use bus and train

- ・ ¥330 yen from Ibaraki University to Mito Station (By Bus)-one way
- ・ ¥320 yen from Mito Station to Oarai Station (By train)-one way

TOTAL ¥1,500 from Ibaraki University to Oarai Station as you use bus

- ・ 750 yen from Ibaraki University to Oarai Station by bus

☆Transportation in Oarai

- ・ ¥500 for rent-a-bicycle
- ・ ¥100 for a one-way trip (bus)

☆Shopping Fee at Oarai

- ・ Experiencing purchasing items at Oarai is required.

## 情報端末の活用

Students are required to download the material from the Dream Campus system.  
Students are encouraged to bring their own PC to the classroom.

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : Fully understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and able to explain them clearly
- A : Understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture well and able to explain them
- B : Understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and able to explain them
- C : Somehow understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture discussed in class and able to explain them with the help of others
- D : Did not understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and not able to explain them

## 成績の評価方法/Grading

1. Active Class Participation 15%
2. Weekly Reflection 15%
3. Final Report 30%
4. Final Presentation 40%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	Japanamerica: How Japanese Pop Culture Has Invaded the U.S.
著者名	Kelts, Roland
出版社	Griffin
出版年	2007
ISBN	978-1403984760
教材費	

### 参考書2

書名	Japan pop! : inside the world of Japanese popular culture / Timothy J. Craig, editor
著者名	Craig, Timothy J., 1947-
出版社	M.E. Sharpe
出版年	2000
ISBN	978-0765605610
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input checked="" type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7702	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	矢嶋 敬紘				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

バリアフリー・アクセシビリティ支援入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、様々な障害の理解や支援に関する講義及び実習により、誰もが人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合える社会とはどのようなものなのかを考え、そのなかでの自分の位置づけを検討する。

## キーワード/Keyword(s)

バリアフリー、アクセシビリティ、障害者支援、共生社会、自己理解、ボランティア

## 到達目標/Learning Objectives

- (1)様々な障害特性について知識を修得し、障害の特性に応じた支援について基礎的な事柄を理解できる。
- (2)社会でバリアフリー・アクセシビリティ推進を行うために必要な知識・技術の基礎を理解できる。
- (3)共生社会に関わる現代社会の論点について説明することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入  
（講義）この授業の進め方、バリアフリー・アクセシビリティ概論  
（グループワーク）コミュニケーション実習
- 第2回：視覚障害  
（講義）視覚障害のある人へのサポート  
（グループワーク）視覚障害体験
- 第3回：聴覚障害  
（講義）聴覚障害のある人について、聴覚障害のある人へのサポート  
（グループワーク）ノートテイク、PCテイク
- 第4回：肢体不自由  
（講義）肢体不自由のある人について、肢体不自由のある人へのサポート  
（グループワーク）肢体不自由のある人への支援実習
- 第5回：知的障害・発達障害  
（講義）知的障害・発達障害のある人について、知的障害・発達障害のある人へのサポート  
（グループワーク）選択的注意体験、わかりやすい情報提示を考えよう
- 第6回：精神障害  
（講義）精神障害のある人について、精神障害のある人へのサポート  
（グループワーク）精神障害の理解のためのビデオ、傾聴実習
- 第7回：災害時支援・共生社会  
（講義）障害のある人への災害時の支援、共生社会の現状と課題及び展望

(グループワーク) 大学での災害時支援検討ワーク

第8回：まとめ、期末試験

(講義) ここまでのまとめと展望 (45分)

(期末試験) 筆記試験を実施する (45分)

【授業外学修】

この授業ではプリントを配付し説明した上で、グループワークにより実際に様々な体験を行い、内容の理解を深めるとともに、実践上の諸課題を検討する。自宅学習では、講義とグループワークの内容および各自が収集した情報をもとに実践上の課題をまとめてショートレポートを作成し、提出することを通して復習の機会とする。

## 履修上の注意/Notes

(1)グループワーク等に積極的に参加すること。

(2)自分と異なる他者の意見や行動を受け止める努力をすること。

(3)ディスカッション・学生の発表-有り、軽微な運動-有り、使用する視聴覚教材の種類-配付プリント・パワーポイント等プロジェクター投影・黒板・ビデオ映像。

## 情報端末の活用

課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：バリアフリー・アクセシビリティに関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：バリアフリー・アクセシビリティに関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：バリアフリー・アクセシビリティに関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：バリアフリー・アクセシビリティに関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：バリアフリー・アクセシビリティに関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

到達目標(1)(2)(3)について、期末試験 (40%)、各授業のショートレポート (60%) により評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で関連資料を配付する。 資料：配付プリント、パワーポイント等プロジェクター投影、板書、ビデオ映像 ビデオ映像には字幕等無いため、合理的配慮等が必要な場合には事前に申し出ること。
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を持ち、障害者支援の経験を有する教員の指導のもと、実践的な支援に関する授業を行う。
---

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7703	ナンバリング	KB-CRC-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	森下 嘉之				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

現代世界とヨーロッパ

## 授業の概要/Course Overview

ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

## キーワード/Keyword(s)

グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネイション、東欧

## 到達目標/Learning Objectives

21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 第一次世界大戦と「民族自決」
  2. ナチズムとホロコースト
  3. 東欧の「ユダヤ人」
  4. 第二次世界大戦後の「東西分断」
  5. 東欧の社会主義
  6. 1989年「東欧革命」
  7. 1990年代ユーゴ紛争
  8. 21世紀のヨーロッパ/期末試験(45分)
- 【授業外学修】（1-8回共通）授業内容および試験出題範囲について、配布レジュメ・資料を事前・事後にダウンロードの上確認しておくこと。

## 履修上の注意/Notes

内容の編集 授業用レジュメおよび史料・教材については、教務情報ポータルシステム上にアップするので、事前に必ずダウンロードの上持参すること。ただし、史料・教材の分量が多い場合にはその限りではない。

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

オフィスアワー：火曜昼休み

## 情報端末の活用



講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、PC持参が望ましい。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：すべての回の授業内容を歴史学的に理解したうえで、適切な事例を踏まえた文章を書くことができる。
- A：すべての回の授業内容を歴史学的に理解していることがわかる文章を書くことができる。
- B：おおよその授業の内容を歴史学的に理解していることが文章から読み取れる。
- C：授業内容を理解していることが文章から読み取れる。
- D：授業内容の理解ができておらず、回答の文章に著しい問題がある。

## 成績の評価方法/Grading

最終回の試験により評価する。試験は記述式。  
授業内容を理解したうえで、試験で提示する「問いかけ」に自分の考えでこたえること。  
レジュメ内容をつなぎ合わせただけの答案では高評価とはならないので注意すること

## 教科書/Textbook(s)

備考	毎回の授業レジュメが「教科書」 参考書については購入までは求めないが、以下をあげておく。 南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年（3200円+税） 木畑洋一『20世紀の歴史』岩波新書、2014年（860円+税）
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

--

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7705	ナンバリング	KB-CRC-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

Japanese Pop Culture B

## 授業の概要/Course Overview

This course examines contemporary Japanese popular culture from sociological perspective. This class focuses on "Cool Japan" phenomena and how it exploits the commercial capital of the Japan's culture industry. Both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussion about these topics are welcome to take.ake.

## キーワード/Keyword(s)

Pop Culture, Cultural Studies, Cool Japan

## 到達目標/Learning Objectives

After completing this course, students will be able to:

1. understand and describe various issues in Japanese popular culture,
2. critically analyze these issues from multiple perspectives, and
3. logically describe their own opinions in forms of presentation and academic writing.

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction to the course-What is "Cool Japan"? / Game Industry
2. Food industry
3. Karaoke Industry
4. Group Project-Selecting a Topic
5. Group Project-Making Questions for Interview/Survey
6. Group Project-Shooting a Video
7. Group Project-Editing a Video
8. Final Product Presentation

### 【Active Learning】

In this class, the instructor uses the active learning model to facilitate the discussion on the above-mentioned topics.

Throughout the course,

- ① Students are first required to think individually, then will actively participate in pair or group discussions and discuss the topics covered in the course. After the discussion, the instructor will facilitate in-class discussions.
- ② Students are required to actively participate in the discussion on Social Media to share their comments/opinions.
- ③ Students will watch documentary videos. After watching the videos, students will engage in discussion on the cases.

Students will work on a project with their classmates. In the project, they will create a video in order to introduce the findings that they gained from the interview, survey, and/or fieldwork about one "Cool Japan" they chose.

【Learning Outside of the Classroom】

- ① Read assigned and supplemental reading materials prior to the class.
- ② Borrow suggested reading materials listed on the syllabus from the university library and read sections related to the topics covered in classes.
- ③ Discuss with your classmates in- and outside of the classes in order to deepen your understanding of the lectures.
- ④ Participate in the discussion on the bulletin board of social networking services where students will interact with each other. In case students have any questions, students are most welcome to ask them on this platform.
- ⑤ Work on the group projects outside of the classroom.

## 履修上の注意/Notes

- ・ This class will be conducted in English.
- ・ Students are required to actively participate in every class discussion.
- ・ No written final exam is given in Class 8.

## 情報端末の活用

Students are required to download the material from the Dream Campus system.  
Students are encouraged to bring their own PC to the classroom.

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+: Fully understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and able to explain them clearly  
A: Understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture well and able to explain them  
B: Understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and able to explain them  
C: Somehow understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture discussed in class and able to explain them with the help of others  
D: Did not understand the issues and concepts related to the Japanese pop culture and not able to explain them

## 成績の評価方法/Grading

1. Active Class Participation 15%
2. Weekly Reflection 15%
3. Final Report 30%
4. Final Presentation 40%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	Japanamerica: How Japanese Pop Culture Has Invaded the U.S.
著者名	Kelts, Roland
出版社	Griffin
出版年	2007

ISBN	978-1403984760
教材費	

参考書2

書名	Japan pop! : inside the world of Japanese popular culture / Timothy J. Craig, editor
著者名	Craig, Timothy J., 1947-
出版社	M.E. Sharpe
出版年	2000
ISBN	978-0765605610
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input checked="" type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7706	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	矢嶋 敬紘				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

カウンセリング心理学入門

## 授業の概要/Course Overview

この授業では、カウンセリングの理論や実践について学ぶことにより、人間の抱える心理的困難やそれへの対応について、複数の視点からの多角的理解の推進を目的とする。講義を中心に、ロールプレイなどの実践的学修も行うため、受講者の積極的な参加が求められる。

## キーワード/Keyword(s)

カウンセリングマインド、自己理解、他者理解、心の健康、ストレス

## 到達目標/Learning Objectives

- (1) カウンセリングマインドを用いた自己と他者との関係を理解できる。
- (2) 現在および将来にわたって健康的なライフスタイルを実践する基礎を修得することができる。
- (3) 心の健康に関わる現代社会の問題について説明することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入

（講義）この授業の進め方、カウンセリング心理学概論

（グループワーク）コミュニケーションをテーマにグループワークを行う。

第2回：カウンセリング理論・見立て(1)

（講義）カウンセリング理論を学ぶことによって、心の健康を回復・維持する要因を理解する。クライアントの見立てを学ぶことにより、人間理解を深める。

（グループワーク）心の健康をテーマにグループワークを行う。

第3回：カウンセリング理論・見立て(2)

（講義）カウンセリング理論を学ぶことによって、心の健康を回復・維持する要因を理解する。クライアントの見立てを学ぶことにより、人間理解を深める。

（グループワーク）自己理解・他者理解をテーマにグループワークを行う。

第4回：ストレス理論

（講義）ストレス理論について学ぶ。

（グループワーク）ストレスをテーマにグループワークを行う。

第5回：マイクロカウンセリング

（講義）カウンセリングの基本技能や考え方を小さなステップに分割し学修する。

（グループワーク）マイクロカウンセリング実習を行う。

第6回：ロールプレイング・事例検討（1）

（講義）カウンセリングの実際の進め方を学ぶ。架空事例を検討し事例の見立てや介入、そこから得られる利益やリスクについて学ぶ。

（グループワーク）ロールプレイング、事例検討を行う。

第7回：ロールプレイング・事例検討（2）/チーム支援とコーディネーション・コンサルテーション

（講義）カウンセリングの実際の進め方を学ぶ。架空事例を検討し事例の見立てや介入、そこから得られる利益やリスクについて学ぶ。チームでの支援に必要な要素を学ぶ。

（グループワーク）ロールプレイング、事例検討を行う。

第8回：まとめと展望、期末試験

（講義）カウンセリング心理学についてのまとめと展望を学ぶ（45分）。

（期末試験）筆記試験を実施する（45分）。

【授業外学修】

この授業ではプリントを配付し説明した上で、ロールプレイング等により実際に様々な体験的学修を行い内容の理解を深めるとともに、心の健康に関わる諸課題を討議する。自宅学習では、講義とグループワークの内容および各自が収集した情報をもとに実践上の課題をまとめてショートレポートを作成し、提出することを通して復習の機会とする。

## 履修上の注意/Notes

(1)グループワーク等に積極的に参加すること。

(2)自分と異なる他者の意見や行動を受け止める努力をすること。

(3)ディスカッション・学生の発表-有り、軽微な運動-有り、使用する視聴覚教材の種類-配付プリント・パワーポイント等プロジェクター投影・黒板・ビデオ映像。

## 情報端末の活用

課題レポートについては、原則教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A + : カウンセリング心理学に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : カウンセリング心理学に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B : カウンセリング心理学に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C : カウンセリング心理学に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D : カウンセリング心理学に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

到達目標(1)(2)(3)について、期末試験（50%）、各授業での小テスト及び課題（50%）により評価する。

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを配付する。
----	----------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○



実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語のみ
-------

### 実務経験のある教員による授業科目

臨床心理士の資格を有し、カウンセラーとしての経験をもつ教員の指導のもと、心の健康に関わる理解を深める講義をする。
--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7707	ナンバリング	KB-CRC-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員（ローマ字表記）	横溝 環				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

多文化コミュニケーション

## 授業の概要/Course Overview

異文化コミュニケーションの土台となる心構えを培う授業である。アクティビティおよびディスカッションを通して、異文化との出会いを楽しみ、多様な考え方があることを学ぶ。そして、多面的視点から物事を捉える姿勢を身につける。

## キーワード/Keyword(s)

異文化コミュニケーション、多文化共生、格差、多様性、多面的視点、価値観

## 到達目標/Learning Objectives

- (1)多様な人々との出会いを楽しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
- (2)異文化コミュニケーションにおいて生じる諸問題について理解し、問題解決に向けて努力できる。
- (3)他者の視点から物事を解釈することができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回. シラバスを用いたガイダンス／話し合う姿勢を学ぼう／解釈の多様性を楽しもう  
（ラウンドロビン）絵を見て話し合い、意見を共有する
- 第2回. 自分の価値観に気づこう（1）：ルール・感情・組織との関わり方ほか  
（ケースメソッド）（ラウンドロビン）価値観について話し合い、意見を共有する
- 第3回. 自分の価値観に気づこう（2）：関与・時間・コントロールほか  
（ケースメソッド）（ラウンドロビン）価値観について話し合い、意見を共有する
- 第4回. 多文化共生について考えよう（1）：格差  
（ラウンドロビン）（親和図法）日本にはどのような格差があるか話し合い、意見を共有する
- 第5回. 多文化共生について考えよう（2）：移民  
（ケースメソッド）（ロールプレイ）ある立場の人になりきって社会問題を捉え、解決策を考える
- 第6回. 多文化共生について考えよう（3）：幸福  
（ラウンドロビン）（クリエイティブ・セッション）幸福とは何かについて話し合い、意見を共有する
- 第7回. 宇宙からみた〇〇：準備  
（クリエイティブ・セッション）絵・写真・動画を用いて発表する
- 第8回. 宇宙からみた〇〇：発表  
（クリエイティブ・セッション）絵・写真・動画を用いて発表する

### 【授業外学修】

- (1) 授業の予習または復習として、自分が興味をもった分野の参考書（授業時に適宜紹介に目を通してください）。

(2) 第1回の授業において、第7回・第8回のクリエイティブ・セッションの課題を提示します。授業外の時間を使って十分に準備してください。

(3) 机の前で本やノートを開くことだけが予習・復習ではないと私は考えています。異文化コミュニケーションの事例は日常生活に溢れています。まずは身近な異文化に気づいてください。そして「これって何だろう?」「どうして今、私はこんな気持ちになっているんだろう?」「どうして、あの人はそんなことをする(言う)んだろう?」といった感情を大切にしてください。さらに「これって授業で学んだあのことかも…」と、自らの経験を授業で学んだことと照らし合わせ捉えていくことを心がけてください。

出会いを学ぶ授業です。このクラスでの出会いを大切に、クラスを離れても相互に声をかけ合い語り合ってください。そして、クラスメート以外の人にもその輪を広げていってください。

#### 【アクティブ・ラーニング】

(1) 毎回の授業において、グループ・ディスカッションおよび発表を行います。

(2) 毎回の授業終了時は、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行います。

## 履修上の注意/Notes

参加型の授業です。(得意、不得意は別にして)自分の意見を発信したい、発信できるようになりたいという意欲のある学生の参加を望みます。オフィスアワーは水曜日の昼休みです。受講者の人数、授業の進み具合により内容を若干変更することがあります。その場合は改めて通知します。

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用することがあります。その場合は事前に授業およびポータルシステムを通して伝えます。課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出してください。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A : 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えを概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えについて最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D: 多文化コミュニケーションの基本的な知識と考えが修得できておらず、さらにその仕組みについて説明できていない。

## 成績の評価方法/Grading

出席が2/3未満の学生は評価対象から外します。期末試験は実施しません。

(1) 期末レポート50% : 授業を通して学んだこと、自らの認識・感情・行動における変化について

(2) 提出物30% : 振り返りシート(ミニツツペーパー)および課題

(3) 授業への貢献度20% : アクティビティおよび討議への積極的参加

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書 : ハンドアウトを配付します。 参考書 : 授業中に適宜紹介します。
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
----------	---

専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7708	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化共生				
担当教員（ローマ字表記）	三輪 徳子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

異文化コミュニケーションとマネジメント

## 授業の概要/Course Overview

日常生活においてさまざまな国の人々と接する機会が増える中、世界の多様な文化に対する理解と、異文化に配慮した適切な異文化コミュニケーションの重要性が増している。本科目では、世界のさまざまな文化や習慣をふまえたうえで、国際協力や国際ビジネスなどの現場でいかに異文化理解や配慮を行いつつ業務を進めていくかについて、具体例にふれつつ考える

## キーワード/Keyword(s)

異文化理解、異文化配慮、異文化コミュニケーション、異文化マネジメント

## 到達目標/Learning Objectives

- 1.世界のさまざまな文化や習慣について知識を深める。
  - 2.国際協力や国際ビジネスに必要な異文化理解や配慮について理解できる。
  - 3.国際的な活動において、いかに文化や習慣の違いをふまえ、それをマネジメントしていくか、具体的に自分で考えることができる。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内学習】

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス
- 第2回 国際活動の現場における異文化配慮のベーシック その1
- 第3回 国際活動の現場における異文化配慮のベーシック その2 演習
- 第4回 異文化体験と異文化コミュニケーション その1
- 第5回 異文化体験と異文化コミュニケーション その2 演習
- 第6回 海外ビジネスにおける異文化理解とマネジメント その1
- 第7回 海外ビジネスにおける異文化理解とマネジメント その2 演習
- 第8回 まとめ

### 【授業外学習】

1. 予習・復習につながる授業前/後レポートを与えるので、きちんと行うこと。特にグループ・ディスカッション・発表形式で行う演習では、事前の準備が議論への積極的な参加と貢献の鍵になるので必ず予習を行うこと。
2. 多様な文化や習慣に対する知識を深めたり、異文化配慮やコミュニケーションの力をつけるには、授業の中で出てきたことだけを予習したり復習したりするのではなく、世界のことに興味を持って新聞を読んだり、関連のTV番組を見たり、身近で行われる国際交流分野のイベントに参加したりすることが望ましい。国際交流分野のイベントなどについては、授業の中でも随時情報を提供するが、授業を一つのきっかけとして積極的に知識と経験を広げることが望ましい。

### 【アクティブ・ラーニング】

- 第3回 ケースにおける異文化配慮案について、それぞれ授業前レポートで準備を行ったうえで、グループに分かれて議論し、結果をグルー

ブゴとに発表する。

第4回 国際協力実務者などの現場活動の体験談を聞き、同ケースに関して異文化体験と異文化コミュニケーションについて考えたことを授業後レポートにまとめる。

第5回 演習授業前レポート、グループ・ディスカッション、ケースメソッド、ロールプレイ) 国際協力関係者として途上国に赴任したというロールプレイのもとケースを与え、それぞれ授業前レポートで準備を行ったうえで、グループに分かれて議論し、結果をグループごとに発表する。

第6回 提示された視点からのメモをつくりながら映像を見て、議論する。

第7回 ケースにおける異文化理解と配慮案について、それぞれ授業前レポートで準備を行ったうえで、グループに分かれて議論し、結果をグループごとに発表する。

第8回 振り返りシートを使って、国際活動における異文化の問題と異文化マネジメントについて、学んだことや認識・行動が変わったことについて振り返る。

## 履修上の注意/Notes

1. 能動的な参加を重視する。特にグループ・ディスカッションは議論に貢献するためにも準備をして参加のこと。
2. 遅刻は原則として認めない。
3. オフィス・アワー：金曜日の昼休み

## 情報端末の活用

授業内でのPC使用はない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：異文化コミュニケーションの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに異文化マネジメントの仕方について説明できている。
- A：異文化コミュニケーションの基本的な知識と考え方を修得し、さらに異文化マネジメントの仕方について説明できている。
- B：異文化コミュニケーションの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに異文化マネジメントの仕方について説明できている。
- C：異文化コミュニケーションの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらに異文化マネジメントの仕方について説明できている。
- D：異文化コミュニケーションの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらに異文化マネジメントの仕方についての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 授業への参加、グループ討論への貢献など (30%)
2. 宿題などの課題提出 (30%)
3. 期末レポート (40%)

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書：なし 参考書：「異文化コミュニケーション」古田暁監修、石井敏・岡部朗一・久米昭原著、有斐閣選書、1700円、「異文化間コミュニケーション入門」鍋倉健悦、丸善ライブラリー、740円、「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」久米昭元、長谷川典子、有斐閣選書、1800円など。（その他の参考書については授業中に紹介する。また、参考資料を適宜、プリント配布する。）
----	---

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	異文化コミュニケーション
----	--------------

著者名	古田暁監修、石井敏・岡部朗一・久米昭原著
出版社	有斐閣選書
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	異文化間コミュニケーション入門
著者名	鍋倉健悦
出版社	丸善ライブラリー
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者名	久米昭元、長谷川典子
出版社	有斐閣選書
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○
---

PBL科目

--

地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ

## 実務経験のある教員による授業科目

国際協力機構（JICA）の元職員で外務省、国際機関（国連開発計画（UNDP））などでの勤務経験も有する教員が、20数年の援助実務者としての経験を活かし、異文化コミュニケーションとそのマネジメントについて実践的な視点から論じる。

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KB0711	ナンバリング	KB-CRC-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	人間とコミュニケーション				
担当教員(ローマ字表記)	田原 彰太郎				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

倫理学入門

## 授業の概要/Course Overview

「～は善い」、「～することは正しい」。こういった道徳判断を私たちは日常的に下しています。しかし「～が善く、～をすることが正しいのはなぜか」と道徳判断の根拠を問われ、この問いに説得力をもって答えることができる人は多くはないはずです。この講義では、義務を基礎とする義務論と幸福を基礎とする功利主義を中心に、規範倫理学と呼ばれる学問分野の知見を用いつつ、この問いに取り組みます。

## キーワード/Keyword(s)

規範倫理学、道徳判断、正しさ、善さ、義務論、義務、カント倫理学、功利主義、幸福

## 到達目標/Learning Objectives

- ・規範倫理学の基礎知識を理解する。
- ・規範倫理学の基礎知識を自分で運用し、道徳判断についての自分の考えをまとめ、それを論理的で明確に表現できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第一回 シラバスを用いたイントロダクション、講義の主題の説明
- 第二回 功利主義の基礎的理解
- 第三回 功利主義の利点と難点
- 第四回 功利主義の展開
- 第五回 義務論の基礎的理解：功利主義との比較を通して
- 第六回 義務論とカント倫理学
- 第七回 義務論の利点と難点
- 第八回 講義全体のまとめ

### 【アクティブ・ラーニング】

各回の終わりの10分程度の時間を使い、コメント・ペーパーを書いてもらいます。そこに意見や疑問を書いてください。その意見や疑問には、次の回でお答えします。

### 【授業外学修】

配布プリントを再読し、講義内容をよく理解するとともに、批判的に検討してください。授業中に挙げられた参考文献などを読み、各回の授業ごとに道徳判断についての理解を深めてください。

## 履修上の注意/Notes

遅刻をするとその回の講義全体を理解するのが難しくなるので、遅刻はできるだけ避けてください。他の受講生の邪魔になるので、授業中の私語は厳禁です。オフィスアワー：水曜日の昼休み（メールにてアポイントを取ってください）。

## 情報端末の活用

--

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- A : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- B : 規範倫理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- C : 規範倫理学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明できる。
- D : 規範倫理学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにそれを用いて自分の言葉で道徳判断を説明することができない。

## 成績の評価方法/Grading

期末レポート：100%

## 教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。
----	------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	動物からの倫理学入門
著者名	伊勢田哲治著
出版社	名古屋大学出版会
出版年	
ISBN	4815805997
教材費	2800

### 参考書2

書名	倫理学の話
著者名	品川哲彦 著
出版社	ナカニシヤ出版
出版年	2015
ISBN	4779509718
教材費	2400

### 参考書3

書名	ビッククエスチョンズ 倫理
著者名	ジュリアン・バジーニ 著
出版社	ディスカヴァー・トゥエンティワン

出版年	2015
ISBN	4799316559
教材費	

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--